

さぼーとほっと基金の見直しについて

〈事務局案〉

	連続申請の制限について	運用方法
さぼーとほっと基金	<p>同一の事業内容は3回まで</p> <p>◇同一事業の2回目、3回目申請時には、事業を振り返りブラッシュアップしていく仕組みにすることで、団体自身の成長・自立につなげ、事業のマンネリ化を防ぐ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連続して3回または通算3回までとする。 ・新たな事業への展開や他の資金確保策の検討を促すなど、団体の財政的自立に向け、市民活動サポートセンター等で必要な支援を行う。

〈参考：他のまちづくり活動助成制度〉

	連続申請の制限について	メリット・デメリット
伊藤組 100 年記念基金など	◇同一事業は1回まで	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成事業を固定化させず、新たな取組を後押しできる。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業効果が高い事業でも、単年度で終了する。 ・団体が力をつけるまで時間がかかる場合があるが、1回しか支援を受けられない。
熊本市、福岡市、岡山市、大阪市、相模原市など	◇1事業に対して3年(3回)まで	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別事業への挑戦など団体の成長を促す ・団体の財政的自立を促す ・事業のマンネリ化をふせぐ <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業効果が高い事業でも、3年を超えたものについて助成できない。
・一財)セブナイレブン記念財団(環境市民活動助成)など	◇3年連続して助成を受けたら翌年はお休み	<p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年空ければ同一事業を継続して申請できるため、助成金頼りになり、団体の財政的自立につながらない
堺市、静岡市、横浜市、北洋銀行(北海道生物多様性保全助成制度)など	◇連続申請の制限を設けていない	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業効果の高い事業であれば、安定的・継続的に実施でき、まちづくり活動の裾野が広がる。 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争が働かなければ、助成事業が固定化し、一定の事業クオリティが担保できないおそれがある ・助成金頼りになり、団体の財政的自立につながらない ・事業がマンネリ化し団体の成長につながらない。